

令和7年度 第3回 学校運営協議会 議事録

校名	府立交野支援学校
校長名	可知 万千代

開催日時	令和8年2月5日(木) 10:00~11:30
開催場所	府立交野支援学校 校長室
出席者(委員)	早野 眞美(会長) 八尾 康則(副会長) 古賀 正広(委員) 佐藤 春彦(委員) 山添 充寛(委員) 五鬼助 朋子(委員)
出席者 (学校)	可知 万千代(校長) 藤原 健太(教頭) 苅谷 美加(教頭) 與賀田 厚(事務長) 相馬 寿子(首席) 木下 達夫(首席) 木下 昌代(高等部主事) 矢口 雄基(中学部主事) 上田 悠司(小学部主事)
傍聴者	なし
協議資料	「令和7年度 学校教育自己診断アンケートまとめ」/「令和7年度 学校経営計画及び学校評価」「令和8年度 学校経営計画及び学校評価」

協議内容・承認事項(説明・意見の概要)

1 校長あいさつ

2 議事

◆令和7年度学校教育自己診断アンケート報告

本アンケートの目的を再確認後、アンケート結果の考察と今後の改善策について報告した。

「人権」「進路」と「外部機関との連携」など、取組みの成果が出て肯定的回答向上。今後も児童生徒にとってわかりやすい教育活動や保護者・外部への取組みの周知にさらに努めていく。

【委員からの意見・質疑応答】

委員:アンケート結果を毎年検討することが大事。回答者の立場に立って様々な検討を進めいってほしい。

委員:気持ちの表現が難しい児童生徒を理解するには、工夫が大切。また、保護者アンケートの回収率58%ということは、42%の保護者の意見が入っていないことも受け止めておくべき。回収率を上げる工夫を。

委員:(教員のアンケート結果と保護者・児童生徒の結果に10%以上の差がある項目についての報告を受けて) 教員と児童生徒・保護者の気持ちがいっつも一致しているとは限らない。相手を理解しようと心がけることがそのギャップを埋める。常に相手の気持ちを考え、寄り添うことを繰り返すことが大事。

委員:進路に関する回答は小中高で差があるのか?リハビリテーション訪問は児童生徒全員に実施か。

➡学部が上がるにつれて、「否定的意見」+「わからない」の意見は減っている。主治医訪問は、児童生徒の医療的ケアや体調面に関する内容について担任・養護教諭、看護師が実施。リハビリテーション訪問は長期休業中を中心に可能な限り訓練を行っている児童生徒全員について実施している。

委員:主治医やセラピスト向けの学校見学会を設けて、外部との連携を図る機会を創っている学校もあると聞いている。参考にしてほしい。

委員:今年度、保護者アンケートの回収率を上げようと保護者間で回答依頼をしている学年もあったので、そのような活動を広げていくことも1つと思う。進路に関しては、学校主催の外部施設等の見学会への保護者の参加者が少ないことが気になっている。PTAとして何かできるかを考えていきたい。

委員:PTAも協力してくれると学校としてはとても嬉しい。学校がより良くなるように反省と改善を繰り返しながら取り組んでほしい。

◆令和7年度「学校経営計画及び学校評価」について報告

学校経営計画の内容の説明と中期的目標「4:社会と繋がるちからの向上」の地域・交流・発信が1つになった活動として「ミュージックシェアリング」での舞台発表を紹介。

・来年度、個別の教育支援計画等が大阪府で統一したシステムに大きく変わるため、外部機関（医療・福祉・放課後等デイサービス・進路実習・進路先）への情報提供を活性化させるとともに、今年度の反省をふまえて個人情報保護について、より一層気を引き締め取り組む。

・防災の面では、大阪府の指示事項に医療的ケアのある児童生徒対応が重点事項として挙げられている。今年度の訓練（避難バッグ・予備薬の持ち出し）をふまえてPTAと協力し、災害に備えていく。また、防犯対策として、侵入者防止のため学校正門に内扉を設置に向けて協議中。

・「質の高い授業実践」として、授業に関する話し合い、ICT機器や自立活動の機器・教材展示会、福祉人材を活用した理学療法/作業療法/言語聴覚療法の研修会、関係機関との交流・連携の機会、校内研究会など様々な実践力向上へと繋がる環境を設けた。来年度も教員専門性向上の研修を企画予定。また、キャリア教育の充実に向け、「交野マトリクス」の取組みは今後も続けていく。

・「働き方改革」について、Wi-Fi環境が整ったことで会議資料のペーパーレス化、チャットによる情報共有が進んだ。腰痛予防対策として介助用リフトを導入し活用が進んでいる

・「社会と繋がる力」として外部講師を招き、交流の機会を数多く持った。また地域の学校・施設や本校の分校である四條畷校高等部との交流及び協同学習も活発に行った。地域支援として本校リーディングスタッフが協働市とともに地域の児童生徒の支援に貢献。本年度は高等学校からの相談が数件あった。

◆令和8年度「学校経営計画」中期的目標について

中期的目標の1・2・4は、今年度と同じ。

3「協働する力の向上」に関して、時間外勤務の縮減について追記⇒承認

【委員からの意見・質疑応答】

委員：勤務時間の縮減/休暇取得促進は大事、同時に職場間のバランス調整も課題。

委員：本校との交流では、生徒たちにとっても貴重な学びの機会となった。3月の交流も引き続きお願いしたい。

委員：児童生徒の活動を活発に支援するということは、それに比例して教員の活動量もあがり、教員の腰痛の要因が増えるとも言える。腰痛軽減として介助用リフトの導入に加えてトイレや教室の設備（ハード面）の改善・改良も大事な視点。

委員：ワークライフバランスを考慮した職場での調整や判断は本当に難しい。加えてパワーハラスメントの問題など職場づくりの課題は多岐にわたる。腰痛予防としては、「パワースーツや介助用ロボットなど」も取り入れてはどうか。

委員：課題を大阪府にあげていくことも必要。

委員：腰痛への対応・予防促進は本当に大事な視点。同時に先生方のより良い勤務体制の調整や工夫も大事。PTAとしても腰痛軽減研修や介助予防講座などについても聞きたい。さくら連絡網は、地域の学校で使用している。使いやすいので、交野支援の導入も期待している。

委員：保護者参加の訓練・研修の工夫等、今後も地道に交野の良さを出し、さらに邁進して行ってほしい。

その他意見交換

委員：私の勤務する施設では、やっとWi-Fi環境が整った。職員は、ほぼ全員が腰痛持ち。施設の運営は厳しい状態ではあるがカフェやパン工房の経営・販売は順調なのでぜひご利用いただきたい。

委員：保護者へのより良い情報発信は、本校としても大事にしている。今回、交野支援学校の取組みから様々なことが学べた。

委員：本校の看護・リハの学生が、お世話になっている。今後ともよろしくをお願いしたい。

委員：地域住民代表としてもできること、お手伝いできることは参加したい。

委員：本協議会を通して、良い経験になった。次年度に向けて、より良い学校づくりに協力していく。

委員：児童生徒・保護者・教職員にとってより良い学校づくりに尽力いただきありがとうございました。